

## 米国 マインドは低い水準にとどまり消費の脆弱さを示唆 (09年10月CB消費者信頼感指数)

発表日: 2009年10月27日(火)

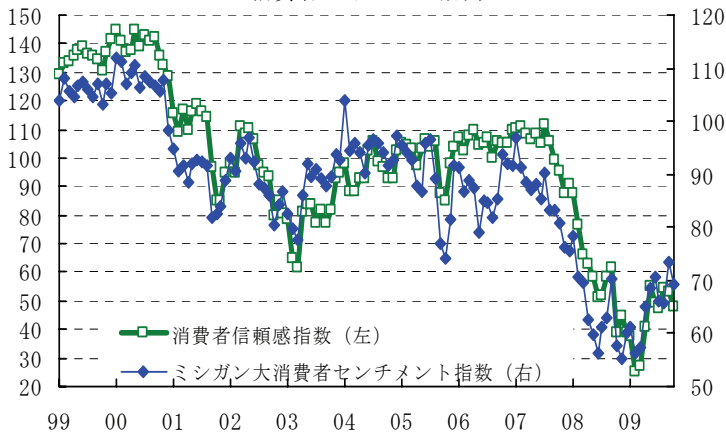
～現状指数は過去最低水準付近に悪化～

第一生命経済研究所 経済調査部  
桂畑 誠治(かつらはた せいじ)  
03-5221-5001

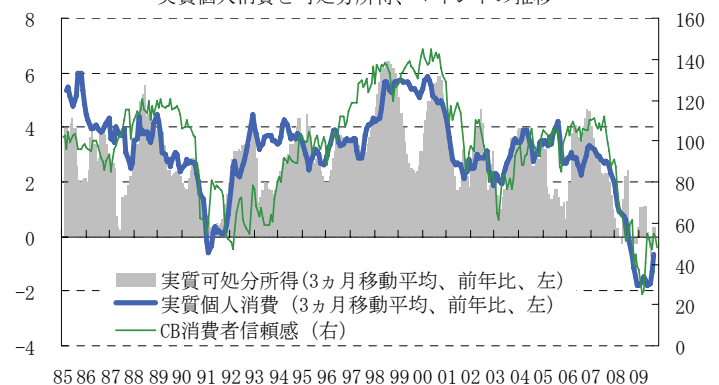
10月のCB消費者信頼感指数は47.7(前月53.4)と市場予想の53.5への改善に反し5.7ポイント低下した。失業率の上昇など厳しい雇用情勢を受け現状指数が過去最低水準付近まで低下したうえ、先行きの景気回復期待が弱まり、雇用・所得情勢の悪化懸念が強まったため、期待指数は低下した。10月の消費者信頼感指数は依然として水準が低いうえ前月から大幅に低下したことから、同月の個人消費の脆弱さを示している。

今後に関しては、景気回復が続くが厳しい雇用情勢などを背景に、現状指数は小幅上昇にとどまろう。一方、期待指数も景気回復期待の強まりによって上昇するが、既にかかなり上昇しており改善余地は限定的。このため、消費者マインドは上昇するものの水準が低く改善ペースが鈍いため、消費の拡大ペースを抑制する要因になると見込まれる。

消費者マインドの動向



実質個人消費と可処分所得、マインドの推移



(出所) 米商務省、CB

### 消費者信頼感 (Consumer Confidence)

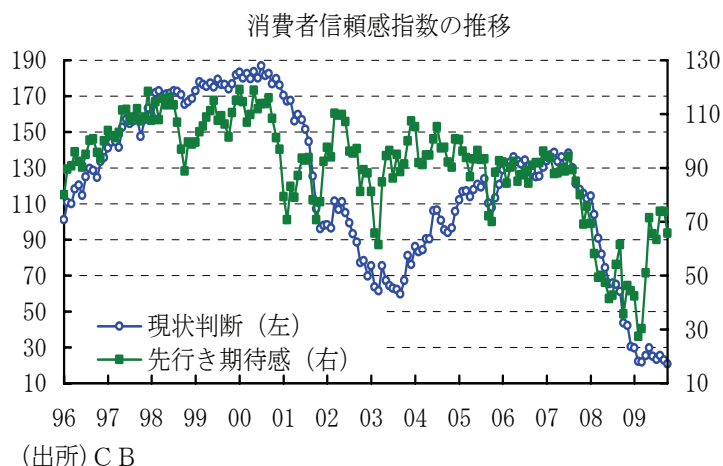
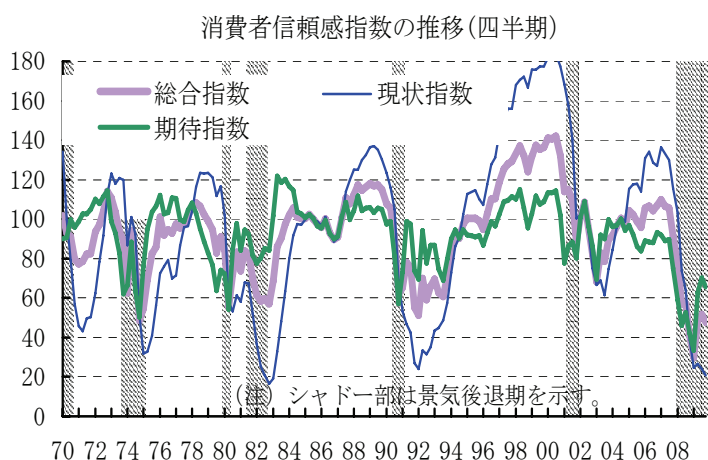
	消費者信頼感指数			雇用判断		半年後の景況感		半年以内の購入計画		ミシガン大学消費マインド		
	期待指数	現状指数		充分	困難	良くなる	悪くなる	自動車	住宅	期待	現状	
09/03	26.9	30.2	21.9	4.7	48.8	9.6	37.8	4.0	2.4	57.3	53.5	63.3
09/04	40.8	51.0	25.5	4.9	46.6	15.7	24.4	4.9	2.6	65.1	63.1	68.3
09/05	54.8	71.5	29.7	5.8	43.9	22.5	18.0	5.7	2.8	68.7	69.4	67.7
09/06	49.3	65.5	25.0	4.5	44.8	20.9	20.4	4.7	2.6	70.8	69.2	73.2
09/07	47.4	63.4	23.3	3.7	48.5	18.4	19.0	4.8	2.1	66.0	63.2	70.5
09/08	54.5	73.8	25.4	4.3	44.3	22.2	15.2	5.3	3.0	65.7	65.0	66.6
09/09	53.4	73.7	23.0	3.6	47.0	21.3	14.6	4.5	2.5	73.5	73.5	73.4
09/10	47.7	65.7	20.7	3.4	49.6	20.8	18.3	4.4	2.3	69.4	67.6	72.1

(出所) The Conference Board, University of Michigan

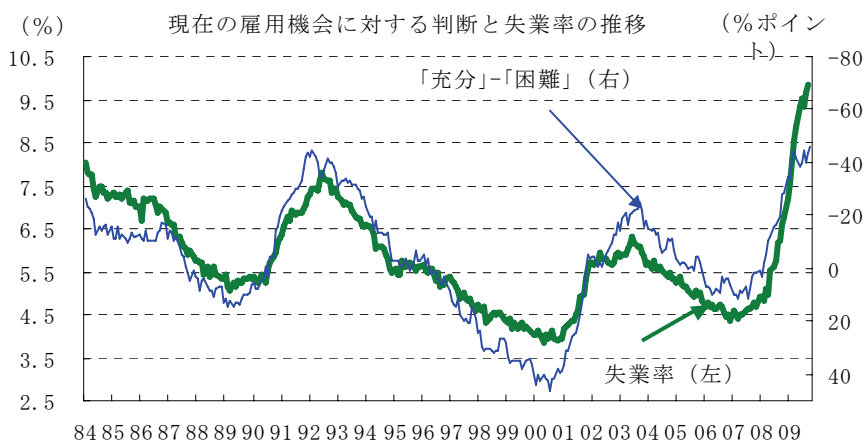
(注) 「雇用判断」、「半年後の景況感」、「購入計画」の単位は%で、全体を占める割合を指す。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

内訳では現状指数が前月比▲2.3ポイント低下したうえ、期待指数が同▲8.0ポイントと大幅に低下した。現状指数は、10月の調査期間に公表された9月の失業率の上昇などを背景に悪化したとみられる。一方、期待指数は、景気の先行きに対する楽観的な見方が弱まり、雇用、所得の先行きに対する悲観的な見方が強まったため大幅に低下した。

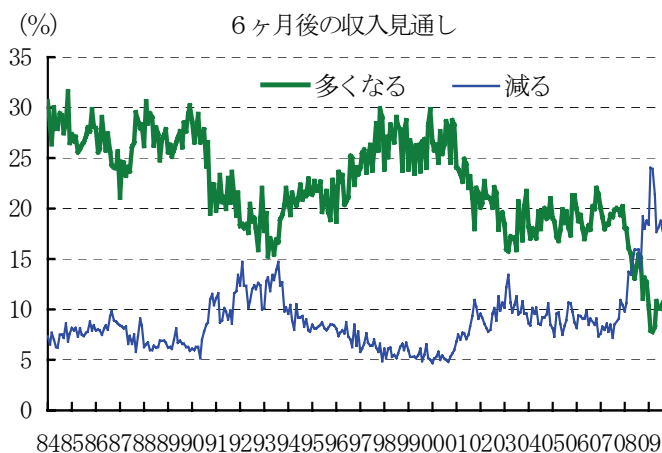
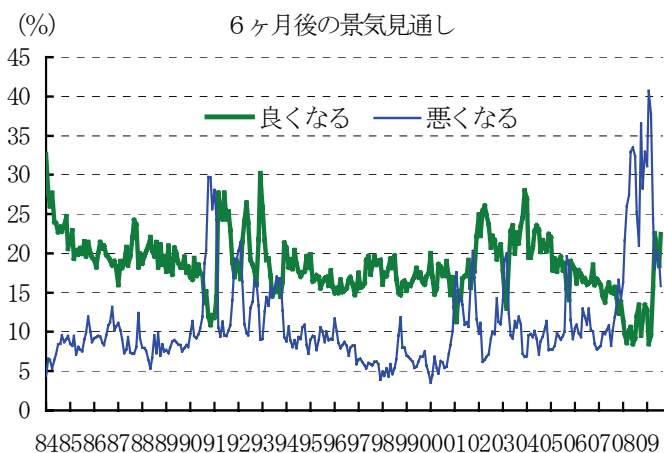


現状指数の詳細では、その構成項目である「景気」、「雇用」は大幅なマイナス水準が続くなか前月からマイナス幅を拡大した。現在の景気に対する悲観的な見方が強まり【現在の景気に対する判断の「良い」-「悪い」が▲39.4と前月の▲37.7からマイナス幅を拡大した】、現在の雇用環境に対する悲観的な見方も強まった【現在の雇用機会に対する判断の「充分」-「困難」が▲46.2と前月の▲43.4からマイナス幅を拡大】。現在の雇用機会に対する判断（「充分」-「困難」）は、失業率と同じ方向に動く傾向があること、労働参加率の上昇が見込まれることから、10月の失業率は10.0%への上昇が予想される。

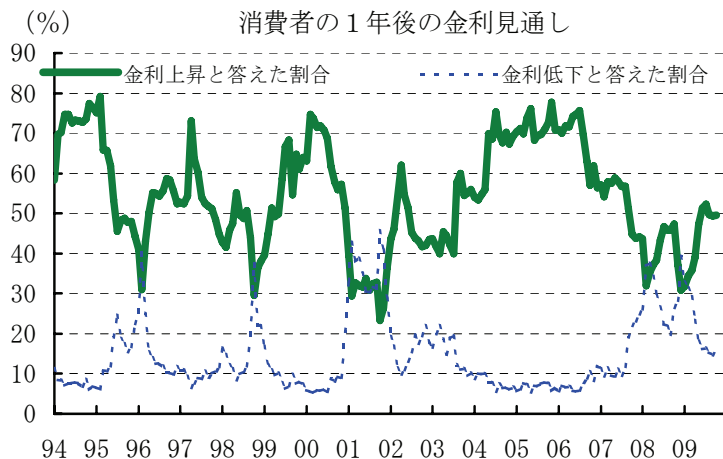


期待指数の構成項目では、「景気」がプラス幅を縮小し、「雇用」、「収入」のマイナス幅が拡大したため、期待指数全体も悪化した。内訳をみると、景気の先行きに対する楽観的な見方が弱まった【6ヵ月後の景気に対する見方の「良くなる」-「悪くなる」が+2.5と前月の+6.7からプラス幅を縮小した】。加えて、雇用の先行きに対する悲観的な見方が強まった【6ヵ月後の雇用に対する見方の「多くなる」-「少なくなる」が▲10.3と前月の▲4.9からマイナス幅を拡大した】。先行きの収入についても悲観的な見方が強まった【6ヵ月後の収入が「増加する」-「減少する」が▲9.2と前月の▲8.1からマイナス幅拡大】。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



インフレに関する調査では、ガソリン価格の上昇等により10月のインフレ見通しが5.3%（前月5.3%）と高止まりを続けた。また、1年後の金利見通しでは景気の先行きに対する見方が楽観的に転じていること、金利の低下余地が小さいことなどから、金利が上昇するとの見方が強く、目先の耐久財、住宅需要を下支えする要因となろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

